

オオモウ山

徳久保のネズコ (水窪町) 巨木に会いにゆく

2022年05月15日(日)

参加者：桐林



風越峠の石碑が人の移動を物語る

浜松市天竜区水窪町を拠点に活動している[NPO 山に生きる会](#) HPに『水窪の巨木』がある。そこに掲載されている『徳久保のネズコ』は山の中にある。現在林道が通行止めということもあり、水窪側からオオモウ山を經由して会いに行ってきた。昨年に引き続き、3回目になる。

朝浜松を5時過ぎに出発し、登山口に6時半到着。ヒルは前回来た時、いなかったため、何も用意していない。結局、最後までノーヒル。鹿の足跡はあるものの、日当たりが良いのか大丈夫だった。水窪側から直にオオモウ山に向かうこの東尾根は急登だ。モノレールがあるものの、人の往来は林業の方のみで土はふかふか。歩きやすくされているわけではない。足がおぼつかない人にはお勧めできない。バランスを取るのに足の筋力をよく使った。

緩い傾斜になり始めると、冷気が上か

ら降りてきた。昨日の雨で地表面がかなり冷めているらしい。神気が帯び始めたか、少し洗われた気持になった。2時間程度でオオモウ山に到着後、尾根を伝って降り風越峠へ。ここには石碑がある。徳久保集落から水窪への人の往来があった道だろう。石碑を守る夫婦杉が朽ちているが、まだ耐えている。

ここから少しずつ緊張してくる。いつ来ても変わらない。どの瞬間で視界に入ってくるのか、ドキドキする。そっとそっと近づいていった。林間から人工物が見えた。杉の巨木たちの真ん中に木造の小屋。そして、台地状の先にネズコが聳えていた。樹齢800年。鎌倉時代に誰かがここに植え、代々守ってきたのだろう。時間の隔たりを物語る重量感にため息が出てしまう。30分ほど写真を撮り、風越峠でお昼に。何となく、目の前でご飯を食べれないのはどうしてだろうか。今後も見守っていきたい。



生命力に圧倒される